



イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっとな心を集めるようになったこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。

「適材適所」

理事長 寺田一郎

今年度も既に四半期を経過しました。四月に人事異動で新しい職場に配属になった人または新人で配置された人などそれぞれが配属先で奮闘してきました。異動が本当に適材適所になっているのか、管理者たちは見極めを行う時期でもあります。

職業評価

六月と七月、ワーナーホームでは正職員全員について「職業評価(セルフアセスメント)&キャリアプラン調査」を実施しました。これは、キャリアパスと一体的な関係にあり、職員育成の一環として行われました。評価と言うものの、評価そのものが目的ではなく、職員育成が目的です。

職員は、今後の人生におけるキャリア形成をどのように考えているのか、何歳ごろにどこで何をしているのか、イメージします。資格は、施設での役割は、役職は、これらを言葉にすることが求められます。そのためには現在の自分自身を率直に見つめることが必要であり、それが職業評価という形をとっています。評価は、自分で行う評価です

が、施設長が同じ項目について評価し、両方を突き合わせる事ができるようになっているとところがミソです。

その内容は、基本的能力と技能・技術に関する能力についての評価です。

基本的能力では、働く意識や仕事に対する自身の目的意識、責任感、コミュニケーション力などを考えてもらいます。どんな職場でも必要とされる能力です。

技能・技術に関する能力分野ではパソコンの基本的操作や関係者との連携、成果の追求や改善・効率化、利用者満足の推進などの事項が並んでいます。職場での取組み姿勢が問われています。

また、専門的なところでは、社会福祉事業に関する基本事項の習得、支援スタッフとしての心構えや組織内での役割分担などがあります。

それぞれの事項について四段階で評価します。

職員と管理者は、このシートを挟んで面接します。まさに適材適所の職員配置がされているのか、職員は楽しく働けているのか。両者の評価が

異なるときはその原因について話合います。職員にとって自分と向き合う時間となり、管理者にとっては職員の気持ちと対面するときです。最終的には「気づきによる新しい出発」が目標です。

キャリアプランニングシートでは五年間の目標や取組む課題に個人のライフイベントも重ねられるようになっていきます。「なるほどこんな計画をもっていたのか!」と驚かされる人もいますが、キャリアプランが記入されていない人も目につきました。自分のキャリア形成を言語化する、もっと端的に言えば自分は職場や社会でどんな役割をとりたいたのかを言葉にできたら違った毎日になると思います。

自分が変わる

ところで、六月の朝日新聞に次のような投書が載っていました。

『すてきな心がけ 学んだ相手は』

旅行会社に入つてすぐ、東京デイズニールランドが開業しました。最初は駐車場でバスの団体客に入場券を配る仕事。一か月続くと「いつまでこんな

な仕事を」と落ち込み、会社を辞めたくまりました。その駐車場に、バスを誘導しながら笑顔で楽しそうに働いている女性がいました。「ミッキーやドナルドと働けなくて残念やね」と言うところ「いいえ。お客様が最初に出会うキヤストが私なんです。こんなすてきな仕事はないです」となるほど。

翌日から私も笑顔で「こんにちは!」とやってみました。するとお客様から「ご苦労様」「ありがとう」という反応。びっくりです。自分の意識と行動を変えようと相手の反応も変わることに気付きました。

それから三四年。その女性、私が家に帰ると「お帰り」と迎えてくれます。(埼玉県、会社役員五七歳)

好きでついた仕事ではないかも知れないが、自分が変わると相手も変わることを実証しているような投書です。小さな喜びが仕事の楽しさに繋がる。対人援助の在り様もここにあると思います。キャリアアップは、その通りに行かないのが人の世の常ですが、考え方で大きく道が開けることを「適材適所」の言葉に付け加えたいと思います。

利用者・ご家族と祝う ホレブ寮

30周年記念パーティー

～サンライズ九十九里にて～



二〇一七年五月二十七日(土)、サンライズ九十九里にて、「利用者・ご家族と祝うホレブ寮三〇周年記念パーティー」を開催致しました。

ワーナーホームは、昨年一〇月に三〇周年を迎え、日頃よりお世話になっていている関係機関の方々や、家族会の皆さんとの記念式典を行いました。三〇年は、多くの利用者が、「三〇年は、多くの利用者が、ご家族そして職員と歩んできた」という思いにより、パーティーの企画に至りました。

現在、ワーナーホームの居住系、通所系の事業所を利用して、いる利用者、ご家族を対象に計画をすると、参加人数は二〇〇名を超えることを予想し、外部での開催としました。また、法人全体の利用者、ご家族、職員が集まるということ、これは、これまでに経験がなく、職員も不安もありましたが、スタッフの準備では利用者と共に企画したり、作業をしたりと、利用者は「みんなでサンライズに行くんだよね、どんな料理が出るのかな」等と当日を楽しみにしておりました。ご家族の皆様には、遠方からご参加いただいた方も多く、感謝しております。

当日、利用者はいつものよりお化粧やYシャツ等のお洒落をして、ちよつと緊張した面

持ちで会場に入りましたが、パーティーが始まると、自然と和やかにリラックスして過ごしていました。

パーティーは、理事長挨拶より始まり、カトレア会小川会長から挨拶、利用者代表として、ホレブ寮開所当時から利用しているファミリー利用者の飯田忠さんからお祝いのメッセージをいただきました。飯田さんは、ワーナーホームが開所した当時のことや三〇年間の思い出を語ったあとで、利用者への言葉でメッセージを締めくくりました。ワーナーホームの歩みとして、三〇周年記念式典で上映された「虹の約束」We are not alone。今、だからこそ、「第二の家族」を觀賞後、乾杯の音頭を、前カトレア会会長の寺田美代子さんと弟のクロワール利用者、



西澤英俊さんにご発声いただきました。

会食時には、利用者の活動風景や笑顔を中心に三〇年間を振り返る「虹の架橋」三〇周年記念パーティーを上映しました。多くの利用者が、「懐かしい、若かったね」とご家族とお話しされている姿がありました。

スタッフ発表では、柏拠点の「ワーナーホーム三〇周年」三〇周年、千葉拠点の「感動秘話でおくる千葉拠点ヒストリー」と、各拠点の歩みとエピソード、合唱などがあり、茂原拠点は、活動状況がわかる「長生三分クッキング」の映像でパンの製造過程等も紹介していただきました。最後に発表した大網拠点は、「個性の開花」ホレブ寮に感謝をこめて」と利用者、職員が一丸となつて「世界に一つだけの花」のフラッシュモブを行いました。移動しながら手作りの花を配り、会場にいるご家族を巻きこみ、盛大な発表となりました。

最後に花束の贈呈は、飯田さんと同じく、ホレブ寮開所時より利用しているクロワール利用者、小島加世子さんより理事長へ贈呈されました。贈呈時に、小島さんが「おめでとう」と言葉をかけた場面は、とても感動的でした。



ご家族より、「自分の家族がスタッフを楽しんだり、一人でトイレに行けたりと、成長を見ることが出来た、利用者ご家族を想って企画した会であった」と、感想が聞かれ、利用者からも「かしこまったものだと思っていたが、ゆつたりと過ごすことが出来た、懐かしい人たちと会えて、参加して良かった」と、多くの方に満足していただきました。

このパーティーを成功させたのは、利用者ご家族が一丸となり、準備をしてきたことに尽きると思います。今後も、より一層利用者へ寄り添い、活動していきます。(武藤)

所内研修



柏拠点では七月五日にANAビジネスソリユーシヨンの講師をお招きして、ビジネスマナーを学びました。仕事に臨む姿勢では、「専門分野の研究」と合わせて「感性を磨く」ことの大切さについて改めて意識しました。職員一人一人がより良い支援を目指して、両方をバランスよく高める努力すること、継承することが今後必要になると思います。

先生のやわらかい表情と言葉、立居振舞い等やり取りの一つ一つから心地よさを感じました。電話でのお問い合わせ、日ごろの振る舞いから利用者やご家族にも安心や信頼を感じて頂けるよう、柏市地域生活支援拠点事業の開始へ向けてより一層意識を高め、力を付けていきたいです。(土屋)

理事・評議員 変更のお知らせ

社会福祉法の改正に伴い、役員・評議員が変更となりました。新役員(自二〇一七年六月二十六日 至二〇一八会計年度に関する定時評議員会終結の時まで)・新評議員(自二〇一七年四月一日 至二〇一九会計年度に関する定時評議員会終結の時まで)は、次の通りとなります。よろしくお願ひ申し上げます。

理事長 寺田 一郎

理事 川名 茂喜
三好恵里子

理事 佐藤 節夫
大久保夏樹
山岡 功平

監事 市東 達也
古山 稔

評議員 丹澤 正直
四方田 清
柳原 保
八角 榮子
今井 哲夫
世戸 浩司
小川 伸子

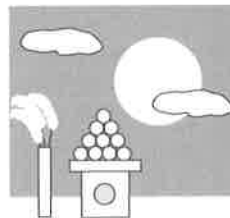
柏・千葉の進捗状況

千葉拠点

「ポルタ」

千葉拠点では、平成三十年四月開所に向けて、グループホーム「ポルタ」の開設備を進めています。現在、千葉市グループホーム整備補助事業に選定され、今後、入札建設会社の決定、建設となります。場所は、誉田駅から徒歩十二分、スパーマーケットも近く利便性の良い所で定員十名、男女混合の予定です。現グループホーム「フジエール」は、病院に隣接しているため三年の期限を設けていましたが、「ポルタ」は期限なしのグループホームです。ポルタは、イタリ語で「扉」という意味です。地域につながる扉という思いを込めて名付けました。自律度の高い人達に、日中はさまざまなことに取り組みながら活動的で健康的な生活を送ってもらいたいと思います。また、近所の方々と身近に接しながら、地域に溶け込んだ暮らし

を楽しんでもらいたいと思っています。(末永)



柏拠点

柏市地域生活支援事業の建設予定地は、現在のたんぼぼセンターのはす向かいになります。今年四月四日に着工し、十三日には利用者も参加して起工式が行われました。七月現在、太い鉄筋の柱に屋根と壁が付き、二棟の建設工事が順調に進行中です。職員と利用者を楽しみに見守るなか、通りすがりの近所の方々も、一体何ができるのかと興味深げに見ていかれます。

一方、運営方法についても具体化している段階です。拠



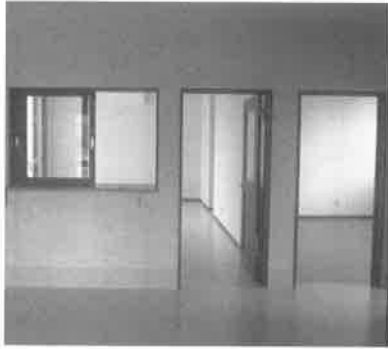
点内の様々な事業所で様々な職種の職員達が、協力して二十四時間の緊急体制を構築するにはどうしたらよいかを話職種の職員達が、協力して二十四時間の緊急体制を構築するにはどうしたらよいかを話し合っています。

拠点の建物に移る各事業の機能も一層拡充される予定です。誰もが安心して暮らせるまち柏を目指して、地域に求められる拠点を提供していきたいと思ひます。(小助川)

ホレブ デイサービスセンター リニューアルしました!!



この度、二〇一七年八月一日に既存建物を改築及び改修して、リニューアルオープンしました。当事業所の建物は、数回改築等を繰り返してきました。まず、二〇〇七年新ホレブ療養所で生活介護事業を開始しました。次に、二〇〇八年元診療所建物を生活介護棟として全面改築及び増築し、現建物での事業を開始しました。更に、二〇一一年利用者の高齢化対策とより良い生活環境づくりの為、入浴設備とテラスデッキを増築しました。



そして二〇一六年、建物の老朽化と利用者の受け入れ拡大を目的に、改築・改修工事が計画されました。実はその夏、事業所のシンボルツリーであった八重桜が台風で根こそぎ倒れてしまいました。桜と建物の調和した雰囲気がとてもよかっただけに、残念でなりませんでした。工事は予定通り二〇一七年三月に工事着工、五ヶ月を経て新生活介護棟が完成しました。主な特徴は、全体的にゆとりのあるつくりになったことです。玄関ホールや静養室を広くし、屋外テラスデッキを居室化、既存の部屋とつなげて広いスペースとしました。テラスはカントリ調の雰囲気そのままに、窓辺にはカウンターの設置、昼食やおやつなど、明るい庭を眺めながら閑談できるようになりました。庭にはこれから二代目の桜の苗木を植えようと考えています。シンボルツリーになれる日が楽しみです。

当事業所は、利用定員を三〇名から三四名に増員しました。日中過ごす場が欲しい方、お話しできる仲間が欲しい方など、ぜひご利用ください。まずはご見学にいらして頂けると幸いです。皆様のお越しをお待ちしております。(吉井)

わーなー日誌 《ホレブデイサービスセンター》

ホレブデイサービスセンターは主に精神障害をお持ちの方に日中生活の場を提供しています。さまざまな創作活動や生産活動を通じて精神の安定とリフレッシュをして頂き、充実した日々を送ってもらうことを目的としています。更に、その人の状況に応じて必要な身体介助(入浴、排泄、食事等)や生活相談など日常生活の支援を行っています。曜日別にくつもプログラムを用意し利用頂いております。月・水・金曜日は入浴の介助を行っており、自宅では入浴が難しい方や、入浴の習慣を付けた方も利用しています。一番人気のプログラムは「おやつ作り」です。火曜日の午後は利用者のみなさんとおやつを作っ



ています。メニューも白玉やホットケーキなどの甘い物から、チヂミやおやきなど、ボリュームのある物まで、リクエストも取り入れて一緒に楽しく作っています。もう一つ人気プログラムが水曜午後の「カラオケ」です。普段物静かな人もお腹から声を出して歌ったり、得意の曲を歌いあげたり、楽しみにしている利用者も多くいらつしやいます。日々のプログラムに加えて毎月一回「外出レク」も実施しており、みんなでおでかけをしてイベントに参加したり、海に遊びに行き、美味しい物を食べたりと毎月様々な企画を考えています。利用者が憩いの場として楽しく過ごせるデイサービスセンターを目指します。(古市)



納涼祭

2017

七月二十九日(土)に納涼祭が行われました。心配されたお天気は、雨も降らずしのぎやすい天候となりました。

今年のテーマは「ワーナーの夏祭り」として、納涼祭が始まった当初に立ちかえり、みんなで作り、参加するものとなりました。『ワーナーグランプリ』を初めて開催し、模擬店の一番を投票してもらいました。投票者には、光るブレスレットをプレゼントし、祭りの雰囲気盛り上げました。グランプリには野菜等の販売とヨー釣りの「ワークショップしらさと」が選ばれました。利用者から「誇らしい。」とのコメントがあり、普段から事業所を大切に思っている気持ち伝わりました。

納涼祭では、酒井さんご家族が十年間、暑い中焼きそばを焼き続け、売り上げを寄付してくださっています。毎年一番に売り切れてしまう評判の焼きそばです。今年は遅ればせながら、感謝状をお渡ししました。

恒例の盆踊りは、『炭坑節・どんぱん節・大網白里音頭』の三曲で、練習を重ねてきた利用者さんが一生懸命に踊る姿

が印象的でした。

今年も浜太鼓の皆さんに、盆踊りやオリジナルの力強い演奏で、祭りに華を添えていただきました。自由に叩ける太鼓も用意してもらい、楽しんで利用者が叩いていました。アンコールもあり、会場全体が手拍子で盛り上がりました。参加者三百名を超える祭りの最後には、来場者の皆さんと童心に帰って、手持ち花火も楽しみました。たくさんの花火で、会場全体が真っ白になりましたが、皆さんの笑顔で終わることが出来ました。

祭りを支えていただいたボランティアの大網白里市社会福祉協議会白里支部の皆さん、城西国際大学・東京成徳大学・植草学園大学の皆さん、ありがとうございます。(香山)



千葉拠点イベント



「ザ・流しそうめん」

「流しそうめん」は、今年で4回目だが、今年は何年と違った。千葉拠点としては初めて、地域の一般の人にも来てもらえる行事として、その名も「ザ・流しそうめん」と称し、地域交流を目的とした。

また、特定非営利活動法人ウィズの「じょい」(生活訓練・生活介護事業所)から、一緒に行いたいとの要望があり、2法人共同で行った。従って、実行委員もワーナーホーム千葉拠点、じょいそれぞれの職員・利用者が担い、事業所を訪問しあいながら、実行委員会を開催し、話し合いを重ねた。ちらし作り、広報、出店、竹作りなど、準備段階から和気あいあいで行った。

当日は、少し風があったものの、「暑い、暑い！」しかし、地域の子供たちや関係機関も来てくれ、総勢150人余りがたまごやミニトマトも流れてくる流しそうめんやスイカ割、出店を楽しんだ。初めて、流しそうめんを経験したという方も多く、竹がとれる地の利を活かし、今後も地域に開かれた事業所として活動を続けたいと思った。

(三好)



夏レク 2017 報告

行ってきました!

ホレブ
ノバハイツ白里
合同日帰り旅行
「東京お台場～
日本未来
科学館～」



ワークショップ
しらさと
「銚子ヤマサ
醤油工場見学」



わたげワークス
「東京上野観光」

ワーナーホーム ワーキング ママ

～10年を振り返って～



所属 本部
役職 事務リーダー
名前 神作 日和子

	仕事と私	子どもたち
2007	7月 ホレブ寮パート事務員として入職	長男 中1 不登校・ひきこもり(本人から公表することの了承を得ています)長女小2
2008	(1～5月 ホレブ寮改修) 10月ホレブデイサービスセンターへ異動	
2009		長男 中3 クラスへ復帰
2010	ホレブ寮事務所改修中は生活指導室(今は理事長室)で、事務処理を行いました	長男 高校 入学
2011		長男 弓道部主将
2012	4月 パートから正職員に契約更新	長女 中学入学 剣道部
2013	キャンパスライフ満喫	長男 大学 (理学部化学科)入学
2014		兄と同じ高校・弓道部入部
2015	ホレブデイサービスセンターの職員としては一番の古株になりました	長女 高校入学 長男 化学メーカー上海支社 インターン生 日本インド学生会議 インド派遣
2016	生活介護棟改築・改修工事計画スタート	長男 大学近くにて1人暮らし開始 11月 日本化学会デビュー 優秀ポスター発表賞受賞 長女 高2先輩と共に弓道団体 インターハイ出場
2017	4月 本部へ移動 7月 生活介護棟工事完了	長男 大学院生として研究に没頭 長女 部活引退し、進路迷いながら勉強中



2月上旬寒い日に
1日ワーナーホームにいて
帰りに連れ帰った次女
(猫)がいます

私は、生活介護事業の開始に伴い、ホレブ寮のパート事務員として二〇〇七年七月に就職してから十年が経過しました。

就職当時、中学一年の長男は、少し学校に行ったり、行かなかったりの状態で、二期からは完全な不登校・引きこもりとなりました。そんな長男を家において仕事に出るのはどうなんだろう、と思うことが多くありました。仕事が休みの金曜日には、いろいろなところへ一人で相談に行くこともありました。後に、本人が「心配で」ずっと家にいられるより、気が楽で良かった。」と言うのをきいて、私も気が楽になったように思います。長男は中学三年になつてクラスへ復帰でき、その後も高校に毎日通っていたことや、長女が中学生になるといふこともあり、私は二〇一二年四月から正職員となりました。ずっと長男のことが気がかりで、長男の発言は聞き漏らすまいと過ごしていた期間が長かつたせいか、「私には興味ないんでしょ」という発言が出た長女との関係改善を図りつつあるところ です。

子どもたちは成長し、それぞれの将来を見据えて頑張っています。母親としても、子どもたちを応援できるように仕事を頑張ります！

カトレア会便り

ワーナーホーム開所三〇周年の祝賀会が、五月二十七日、「サンライズ九十九里」で、盛大に行われました。このような晴れやかな場で、家族一緒に三〇周年を祝うことが出来ましたこと、大変、嬉しく喜ばしく思います。改めて、心より感謝申し上げます。

三〇年の間に世の中は進歩して、私たちを取り巻く環境も大きく変わり、ワーナーホーム様も、大きく立派に発展されました。でも、昔と変わっていないのは、私たちに対する職員の皆様の暖かさです。ワーナーホーム開所当初からの入居者の飯田様も、スピーチで、「こんないい所、他にありませんからね。」と、言っておられました。私も、三〇年前、弟のことで不安と絶望感でいっぱい私たちを、暖かく迎えてくださったことを、今でも覚えておりますが、あの時と同じ暖かい雰囲気の中で、私たちは、楽しく有意義な一時を過ごしました。

スライドショーでは、ワーナーホーム三〇年の歩みと、理事長はじめ、職員の皆様のお思いとご苦労を知ることができま

きました。その後、利用者様と職員の皆様による寸劇を楽しみ、最後に全員で、「世界に一つだけの花」を歌いました。カトレア会からは、出席してくださった皆様に、「ワーナーホーム三〇周年記念 カトレア会」と印字された、三色ボールペンを配布させて頂きました。とても書きやすい、いいボールペンですので、ぜひ、お使いくださいまして、カトレア会のことを思い出して頂き、また、入会されておられない方は、入会されますことをお勧めします。そして、総会、交流会にも参加してくださることによって、ご家族の皆様との輪が広がることを心より願っております。

今年のカトレア会総会は、六月二二日、パンプキンハウスで行いました。議事終了後、ペジブル茂原店の美味しいパンで昼食会を楽しみ、ワーナーホーム本部、ワークショップしらさと、ペジブル茂原店を見学させて頂きました。今回は、平日の開催でしたので、作業をされている利用者様の様子を、近くで実際に見る事ができました。皆様

真剣な緊張感のあるいい表情で、働いておられるのが、印象的でした。

労働は、勉強したり、趣味の事を楽しんだりするのは違つて、責任もあり、我慢しなければならぬことも多く、ことに精神を病む人々にとつては大変ですが、それによつて収入を得ることができ、働く喜び、社会貢献できる喜びを味わうことができます。ワーナーホーム様は、開所当初より、精神障害者が、働くことによつて自立することを目指しておられました。それは、並大抵のことではありませんでしたが、今、このようにして働く機会を与えてくださっていることを、家族ともども大変ありがたく思っております。同時に、理事長はじめ、職員の皆様のご努力とご苦労を忘れてはならないと思っております。



今年の総会は、十二時からでしたので、茨城県の方は四時起き、埼玉県の方は五時起きだったとのことで、皆様、遠くから来て下さったのですが、それぞれに有意義な一日を過ごされたのではないのでしょうか。

総会の出席者は、毎年、同じ顔ぶれでしたが、今回、初めて総会に出席して下さった方が、一名いらして、とても嬉しく思いました。

九月には、交流会もありま

カトレア会 (家族会) 入会のご案内

カトレア会は、社会福祉法人ワーナーホームの家族会で、

①精神障害者の親の悩みは切実なものであり、同じ悩みを持つ者が、慰め合える機会が欲しい

②社会復帰を目指す利用者に対し側面的な協力も考えていかなければならない

「(立ち上げ当初の案内文より抜粋)」という目的で平成元年にご家族の有志によつて立ち上がりました。

総会だけでなく、勉強会、交流会などで家族同士の顔が見える関係、同じ悩みを共有できる機会となっております。交流を通して、情報交換を行い、利用者の今後を考えます。また、ワーナーホームへ要望を出し、利用者が安心して過ごせることを見守り続ける役割も担っています。

大網だけでなく、柏、千葉、茂原拠点のご家族も参加できます。多くのご家族に参加していただき、より有益な会にしていきたいと思っております。なお、年会費は三千円です。皆様のご入会をお待ちしております。

(武藤)

ワナーホームの主な動き

〈五月〉

- ・このころのふれあいフェスティバルへホレフデイサービスセンターへ
- ・マザー牧場へホレフデイサービスセンターへ
- ・PASABLE三店舗合同研修へワークショップ・茂原へ
- ・ホレフ寮三〇周年パーティー
- ・バーベキューへ

〈六月〉

- ・ビッグボーイ&コートダジュールへホレフデイサービス センターへ
- ・交流会へ山武フリオへ
- ・ラベンダーマルシェ出店へワークショップ・茂原へ
- ・上野めぐりへわたげワークスへ
- ・理事会・評議員

〈七月〉

- ・アリオ柏へ
- ・流しそうめんへ
- ・ザ・流しそうめんへワークショップ鎌取へ
- ・おいしんぼ(蘇我アリオへ)
- ・夏レク「ヤマサ醤油工場見学」へワークショップしらさとへ
- ・納涼祭
- ・日帰り旅行(お台場)へホレフ・ン
- ・バハイツ白里へ

〈八月〉

- ・アリオ柏へ
- ・流しそうめんへ
- ・大洗水族館へ
- ・フナタリウムへ
- ・海ほたるへホレフデイサービスセンターへ
- ・だるまさん夏祭り出店へワークショップ・茂原へ
- ・九十九里花火大会へ
- ・夏レク(スイカ割り・花火)へ
- ・理事会
- ・夏レク(映画鑑賞)へホレフ・ン
- ・バハイツ白里へ



再版「虹の約束」

三十周年を記念して、「続・虹の約束」を出版しました。先、「虹の約束」のお問い合わせがあり再版いたしました。



ご希望の方はお問い合わせください。
定価本体
二千円(税別)

みんなのまつり

恒例のバザー品募集

10月29日(日)に「みんなのまつり」を開催しますので、ご家庭で眠っている品物がありましたら、是非ご提供下さい。

イキシア入会のお願い

イキシア会は利用者とそのご家族及び一般有志からなるワナーホームの支援団体です。活動においてご理解を頂き、ご支援・ご協力を賜ります様宜しくお願い致します。

広報イキシアは年三回(二月・五月・九月)発行されます。

〈会費〉

賛助会員 三千円(年)
正会員 一万円(年)

編集後記

九月といえば、食欲の秋、運動の秋、読書の秋・・・みなさんはどんな秋を過ごされますか。ワナーホームでは、ソフトバレーの大会に向けて、選手みんなが一丸となり、練習を頑張っています。

(M)

発行所

ワナーホームイキシア会

千葉県大網白里市細草3215

電話 0475-77-2100(代)

URL <http://www.wanahome.or.jp>

発行人 寺田 一郎